

平成26年度博物館施設評価集計シート
(年度末)

施設名 さきたま史跡の博物館

| 評価基準 | |
|------------------|---|
| 目標値の達成度(100%以上) | A |
| 目標値の達成度(80%~99%) | B |
| 目標値の達成度(80%未満) | C |

1. 全館共通項目

(1) 数値目標による評価

| No. | 視点 | 項目 | 指標 | 目標値 | | 評価 | 目標値の設定根拠 |
|-----|-------|------------|--------------|------------|-----|----|---------------------------------------|
| | | | | 達成値 | 単位数 | | 特記事項 |
| 1 | 利用状況 | 入館者 | 一日あたりの平均入館者数 | 338 | 人 | A | 338人×100% 開館日数:314日 総入館者数:113,717人 |
| | | | | 362 | 人 | | |
| 2 | 利用状況 | 常設展観覧者 | 一日あたりの平均観覧者数 | 338 | 人 | A | 338人×100% 開館日数:314日 総観覧者数:113,717人 |
| | | | | 362 | 人 | | |
| 3 | 利用状況 | 情報提供サービス | 年間レファレンス対応件数 | 555 | 件 | B | 572件×97% |
| | | | | 471 | 件 | | |
| 4 | 利用状況 | インターネットの活用 | 年間HPアクセス件数 | 734,121 | 件 | C | 354,648件×207% 更新150回 |
| | | | | 543,761 | 件 | | |
| 5 | 広聴・広報 | 事業情報の発信 | 対マスコミ情報発信件数 | 244 | 件 | B | 126件×194% 掲載件数67件 |
| | | | | 226 | 件 | | |
| 6 | 効率的運営 | 経営努力 | 観覧料および事業等収入額 | 10,540,000 | 円 | A | 当該年度予算計上額 7,503,820+4,756,590(円) |
| | | | | 12,260,410 | 円 | | |

| 評価基準 | |
|--------------------|---|
| チェックリストのクリア数(8割以上) | A |
| チェックリストのクリア数(5割以上) | B |
| チェックリストのクリア数(5割以下) | C |

(2) チェックリストによる評価

| No. | 視点 | 項目 | 指標 | 実施目標 | | 評価 | 実施目標の設定根拠 |
|-----|-----------|-----------|----------------------|------|-----|----|--------------|
| | | | | 達成値 | 単位数 | | 特記事項 |
| 1 | 資料の収集・保管 | 資料の収集 | 収集方針に基づいた継続的な収集事業の実施 | 12 | 件 | A | 別紙チェックリストによる |
| | | | | 11 | 件 | | |
| 2 | 資料の収集・保管 | 資料の保存・管理 | 適切な保存・管理の実施 | 17 | 件 | A | 別紙チェックリストによる |
| | | | | 16 | 件 | | |
| 3 | 展示・教育普及 | 資料の活用 | 展示・公開・貸出等での資料活用状況 | 10 | 件 | A | 別紙チェックリストによる |
| | | | | 9 | 件 | | |
| 4 | 展示・教育普及 | 常設展示 | 来館者に配慮した展示運営 | 10 | 件 | A | 別紙チェックリストによる |
| | | | | 10 | 件 | | |
| 5 | 展示・教育普及 | 学習支援事業 | 参加者に配慮した事業運営 | 9 | 件 | A | 別紙チェックリストによる |
| | | | | 9 | 件 | | |
| 6 | 連携・協働 | 県民との連携・協働 | 連携・協働の実施状況 | 7 | 件 | A | 別紙チェックリストによる |
| | | | | 7 | 件 | | |
| 7 | 調査研究 | 調査研究活動 | 活動状況および成果の公開状況 | 10 | 件 | A | 別紙チェックリストによる |
| | | | | 9 | 件 | | |
| 8 | 施設・アメニティー | 快適空間の提供 | 施設・設備の改善状況 | 13 | 件 | A | 別紙チェックリストによる |
| | | | | 13 | 件 | | |
| 9 | 施設の活用 | 施設の利用・活用 | 施設の利用・活用状況 | 6 | 件 | A | 別紙チェックリストによる |
| | | | | 6 | 件 | | |

2. 館別独自項目
 (1) 数値目標による評価

| 評価基準 | |
|------------------|---|
| 目標値の達成度(100%以上) | A |
| 目標値の達成度(80%~99%) | B |
| 目標値の達成度(80%未満) | C |

| | 視点 | 項目 | 指標 | 目標値 | | 評価 | 目標値の設定根拠 | |
|---|------|----------|------------------|--------|---|----|-----------------------|--|
| | | | | 達成値 | | | 特記事項 | |
| 1 | 利用状況 | 入館者 | 企画展・テーマ展の入館者数 | 20,000 | 人 | A | 昨年度実績 | |
| | | | | 36,670 | 人 | | | |
| 2 | 利用状況 | 出前授業 | 出前授業の実施校数 | 10 | 校 | A | 昨年度実績 | |
| | | | | 17 | 校 | | | |
| 3 | 利用状況 | 学校利用 | 学校団体の博物館利用校数 | 200 | 校 | A | 昨年度実績 | |
| | | | | 230 | 校 | | | |
| 4 | 資料管理 | 資料点検 | 年間の点検資料数 | 600 | 点 | B | 資料点検年次計画による | |
| | | | | 504 | 点 | | 国宝展示室(126) + 収蔵庫(378) | |
| 5 | 満足度 | 常置アンケート | アンケートでの展示満足度 | 80 | % | A | 昨年度実績 | |
| | | | | 89 | % | | | |
| 6 | 満足度 | 講座等アンケート | アンケートでの講座等受講者満足度 | 80 | % | A | 昨年度実績 | |
| | | | | 94 | % | | | |

| 評価基準 | |
|--------------------|---|
| チェックリストのクリア数(8割以上) | A |
| チェックリストのクリア数(5割以上) | B |
| チェックリストのクリア数(5割以下) | C |

(2) チェックリストによる評価

| | 視点 | 項目 | 指標 | 実施目標 | | 評価 | 実施目標の設定根拠 | |
|---|---------------------|--------------|------------------------|------|---|----|--------------|--|
| | | | | 達成度 | | | 特記事項 | |
| 1 | 史跡整備 | 史跡整備事業の実施と活用 | 国史跡整備の実施状況 | 10 | 件 | A | 別紙チェックリストによる | |
| | | | | 9 | 件 | | | |
| 2 | 古墳公園空間の提供 | 公園整備と利・活用 | 古墳公園としての実施状況 | 5 | 件 | A | 別紙チェックリストによる | |
| | | | | 5 | 件 | | | |
| 3 | 考古資料を活用した体験プログラムの提供 | 考古体験事業の実施 | 機能や特色を生かした体験プログラムの実施状況 | 6 | 件 | A | 別紙チェックリストによる | |
| | | | | 6 | 件 | | | |
| 4 | 魅力ある展示事業 | 企画展示事業の実施 | 各時代の考古学をテーマとした企画展の実施状況 | 7 | 件 | A | 別紙チェックリストによる | |
| | | | | 7 | 件 | | | |

年度内に取り組んだ重点事業、新たな取り組み等

| | |
|-------|--|
| 事業の概要 | ①丸墓山・鉄砲山古墳の発掘調査と、二子山・稲荷山古墳の史跡整備 ②埼玉古墳群総括報告書刊行に向けた準備 ③収蔵資料等の公開・活用 ④資料展「はにわー沈黙の語り部たち」(熊谷図書館)との連携 ⑤出前授業「なるほど古墳時代」と、自由研究相談窓口「調べてわかる埼玉古墳群」実施 ⑥体験メニューとミュージアムグッズの充実 ⑦利用促進のための広報活動 ⑧Googleアートプロジェクトへの参加 |
| 事業の成果 | ①鉄砲山古墳発掘調査の現地説明会開催(1月25日, 112人) ②総括報告書刊行のための専門部会委員の選任作業 ③国宝稲荷山古墳出土品の公開、企画展「ハニワの世界」開催(9月20日～11月16日, 13,578人) ④資料展「はにわー沈黙の語り部たち」関連事業「はにわの形と思想」講座開催(11月1日) ⑤出前授業17校33学級(994人)、自由研究7月29～31日(33人) ⑥ガラス玉づくり2月3～22日(105人)、特別支援学校等と連携して西川材「木製パズル」の制作・販売 ⑦「まが玉づくりと国宝見学」チラシ配布(県内小学6年対象, 7月) ⑧高解像度静止画31点, 館内のストリートビュー, 古墳群のストリートビュー, YouTube(10月27日公開) |

基礎データ

| | | | | | |
|------------------|--------------|----------------------|-----------------------------|---------------------------|--------|
| 職員数 (学芸員数) | 24人 (10人) | 総予算額 (人件費を除く) | 87,958,000円 | 職員一人あたりの県民人口 | 31.4万人 |
| 収蔵資料総点数 | 2,153箱 | 事業経費 (上記の内数) | 15,758,000円 | 利用者一人あたりのコスト (平成25年度) | 728円 |
| 平成25年度 収集資料点数 | 60箱 | 特定財源予算額 (うち観覧料収入) | 10,540,000円 (7,515,000円) | 県民人口に対する利用者割合 (平成25年度) | 1.54% |

(注)平成26年度4月1日現在の埼玉県推計人口は7,225,484人である

平成26年度 博物館施設 総合評価

施設名 さきたま史跡の博物館

| | | A評価 | B評価 | C評価 |
|------|--------------|-----|-----|-----|
| 全館共通 | 数値目標による評価 | 3 | 2 | 1 |
| | チェックリストによる評価 | 9 | | |
| 各館独自 | 数値目標による評価 | 5 | 1 | |
| | チェックリストによる評価 | 4 | | |

自己評価総括

| | |
|-------|---|
| 評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・今年度新たに稲荷山古墳埋葬施設のリニューアルに着手するなど、着実に史跡整備事業を進めている。 ・中期事業計画(26～30年度)を定め、各年度ごとのテーマに沿って、展覧会や講座を連動して開催するようにした。 ・昨年度に比べ入館者等が増加している。特に7～9月は、入館者全体22.5%、小学生個人55.4%、まが玉販売個数が75%増加した。 ・資料活用において、資料貸出1,418点・特別利用7,057点は他館と比べても突出して多く特記する。 |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・博物館ユニバーサルデザイン化事業の取り組み。 ・評価結果を改善に反映する仕組みづくり。 |
| 対応の方向 | <ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術振興基金などを導入した新規事業の立ち上げ。 ・職員全体で博物館評価の意義を理解し、共有していく。 |

評価結果に対するコメント

1. 全体に係る評価

| | |
|------------------|---|
| 各館協議会・委員会 の意見 | <ul style="list-style-type: none">・利用状況の目標達成は、教育普及事業の企画力や運営、ボランティアとの連携、適切な接客によるところが大きい。職員の意識・献身を高く評価したい。・特に、考古資料を活用した体験プログラムは、ガラス玉づくりや貝輪の制作など、新しい試みに果敢に取り組んでおり、この姿勢を今後も続けてほしい。・史跡整備事業も緩やかではあるが、着実に成果を上げている。継続は力であり、明確な中長期的目標を掲げて、着実に進めてほしい。・企画展示評価はAとあるが、入館者数だけでなく、顧客の満足度のデータ分析を望む。7回の実施は職員の努力を評価したいが、そのうちの1回は企画・内容・広報において特別展級のものを望みたい。・情報提供、インターネットの活用、広聴・広報は軒並みCである。職員の顔が見え、声が聞こえるコンテンツの充実が望まれる。携帯端末やSNSによる情報発信も検討してよいのでは。・調査研究では、館としての柱を明確にすべきである。例えば、「古墳詳細分布調査」の長期的継続である。予算はなくとも、職員の足、ボランティアの協力、市町村との連携による事業実施が考えられる。それをもとに「古墳探訪」のようなコンテンツを制作・更新し、デジタル・アーカイブとして公開することも考えてよいのではないか。 |
|------------------|---|

2. 全館共通項目に係る評価

| | |
|------------------|---|
| 評価 小委員 の意見 | <ul style="list-style-type: none">・稲荷山古墳埋葬施設のリニューアルをはじめ、着実に史跡整備事業を進めているのは高く評価できる。史跡整備と展示・講演会などが連動して行われることを希望する。 ・中期事業計画(26~30年度)を定め、各年度ごとのテーマに沿って、展覧会や講座を連動して開催するようにしたということだが、年度ごとのテーマ決定にあたっては、観覧者のニーズが適切に反映される態勢としていただければと思う。・昨年度に比べ入館者等が大きく増加している点も高く評価できる。とくに、将来の主要なリピーターたり得る小中学生へのさらなる働きかけをお願いしたい。・ホームページへのアクセス増加には、話題づくりが欠かせない。広く一般的に読まれるよりも、一部好事家好みの資料に限定して、当館ならではの話題を発信できないか。・また、親しみ感醸成のために、各学芸員の人となり写真付きで掲載し、各人の魅力でアクセス数を増せないだろうか。人ネタは館の顔が見えて、情報を得やすくすると考える。・出前授業など外に出かけての直接的な情報発信への取り組みは評価したい。・昨年度からの65歳以上有料化にも関わらず、今年度もさらに利用者数が増加したこと、とくに小学生入館者の大幅な増加は、積極的な学校連携事業の成果として評価したい。・レファレンス件数が毎年漸減している。今後特別史跡指定に向けた保存・整備を推進していくなかで、より広く県民に当館の役割・機能・活動を知ってもらうために、広報活動の工夫と、学芸員の調査研究と成果公開により常に新鮮な情報を発信していくこと求めたい。 |
|------------------|---|

必須項目チェックリスト(さきたま史跡の博物館)

| 項目 | 共通 | チェック内容 | チェック欄 | 備考欄 | |
|---------|------------|-------------------------|--|-----|---------------|
| | 個別 | | | | |
| 資料の収集 | 共通 | ① | 資料の収集方針、収集計画が策定されているか | ○ | H18保存整備計画策定 |
| | | ② | 収集方針、収集計画に基づき資料収集が行われているか | ○ | 収集点数 8箱 |
| | | ③ | 特色あるコレクションの形成に努めているか | ○ | S43以来継続調査 |
| | | ④ | 有形資料に限らず、映像資料や情報資料等も積極的に収集しているか | ○ | 資料調査時に適宜収集 |
| | | ⑤ | 収集した資料についての調査を実施し、調書を作成しているか | ○ | 整理・報告書作成 |
| | | ⑥ | 客観的な評価を経て購入・受け入れをしているか | × | 評価委員会設置検討中 |
| | | ⑦ | 資料台帳が整備されているか | ○ | 収蔵資料管理要項 |
| | | ⑧ | 収集資料を遅滞なく台帳に登録しているか | ○ | 同上 |
| | | ⑨ | 収集資料ラベルが整備されているか | ○ | 同上 |
| | | ⑩ | 収集資料ラベルが遅滞なく添付されているか | ○ | 同上 |
| | | ⑪ | 資料の基本データが遅滞なく作成・管理されているか | ○ | 同上 |
| | | ⑫ | 収集資料の殺虫処理・クリーニングが適切に行われているか | ○ | 殺虫消毒実施6/24・25 |
| | 個別 (自然) | ① | 登録分野に基づいた標本化をしているか | / | / |
| ② | | 標本作製途中の資料の管理が適正に行われているか | / | / | |
| 資料の保存管理 | 共通 | ① | 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項が整備されているか | ○ | 収蔵資料管理要項 |
| | | ② | 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項が職員に周知され、それに基づいて資料の保存管理が実施されているか | ○ | 学芸会議で周知 |
| | | ③ | IPMの考えに基づいた資料の保存管理について、最新情報の収集や研修が行われているか | ○ | 殺虫消毒時実施 |
| | | ④ | 資料の収蔵環境は適正に確保されているか | ○ | 温湿度管理 |
| | | ⑤ | 資料の定期的な点検清掃作業が行われているか | ○ | IPM実施 |
| | | ⑥ | 有害生物のモニタリングを実施し、その結果に基づき適切な対処をしているか | ○ | モニタリング調査実施 |
| | | ⑦ | 資料の殺虫殺菌処理が適切に行われているか | ○ | 殺虫消毒実施6/24・25 |
| | | ⑧ | 温湿度の日常的な管理・記録化などが行われているか | ○ | データログで情報収集 |
| | | ⑨ | 光量の管理が適切に行われているか | ○ | 適正照明具の使用 |
| | | ⑩ | 資料の所在確認作業を定期的に行っているか | ○ | 管理日誌記入 |
| | | ⑪ | 資料の劣化状況を定期的に確認しているか | ○ | IPM作業時に確認 |
| | | ⑫ | 資料の修復や保存処理等の措置を計画的かつ必要に応じて行っているか | × | 予算措置が行われていない |
| | | ⑬ | 借用資料・寄託資料の更新手続きは適正に行われているか | ○ | 承諾書等の更新 |

| 項目 | 共通 | チェック内容 | チェック欄 | 備考欄 |
|---------|----|-------------------------------------|-------|---------------------|
| | 個別 | | | |
| 資料の保存管理 | 共通 | ⑭ 資料のデータベースが整備されるとともに、情報が適宜更新されているか | ○ | 館内検索システム |
| | | ⑮ 収蔵庫の入退室管理簿が整備されるとともに、適正に管理されているか | ○ | 収蔵資料管理要項 |
| | | ⑯ 収蔵資料の出納簿が整備されるとともに、適正に管理されているか | ○ | 同上 |
| | | ⑰ 収蔵庫の鍵が適正に管理されているか | ○ | 同上 |
| 資料の活用 | 共通 | ① 収蔵資料の活用に関して規程・手続きを整備しているか | ○ | 博物館条例・管理規則 |
| | | ② 収蔵資料の活用に関する手続き等が公開されているか | ○ | HP等に掲載 |
| | | ③ 収蔵資料を展示に活用しているか | ○ | 利用点数 391点 |
| | | ④ 収蔵資料の館外貸し出しに適切に対応しているか | ○ | 貸出点数 1418点 |
| | | ⑤ 収蔵資料の特別利用(熟覧・撮影等)に適切に対応しているか | ○ | 利用点数 6,477点 |
| | | ⑥ 二次資料(写真等)の特別利用(原板使用等)に適切に対応しているか | ○ | 利用点数 580点 |
| | | ⑦ 資料のデータベースを公開しているか | ○ | 25年3月公開 |
| | | ⑧ 公開したデータベースの情報が適宜更新されているか | × | 今後更新予定 |
| | | ⑨ 収蔵資料をホームページで公開しているか | ○ | ベストコレクションを紹介 |
| | | ⑩ ホームページで公開している収蔵資料情報を適宜更新しているか | ○ | GoogleアートPに参加 |
| 常設展示 | 共通 | ① 展示関連のサイン・パネル等がわかりやすいか | ○ | 情報量・文字サイズ適正化・写真等を活用 |
| | | ② 展示室内に監視員や監視カメラ等を配置しているか | ○ | 看視・警備員配置 |
| | | ③ 展示情報が適宜修正・更新されているか | ○ | 適宜実施 |
| | | ④ 展示設備等が適宜点検されているか | ○ | 開館中適宜巡視実施 |
| | | ⑤ 展示ガイド等が作成されているか | ○ | ガイドブックさきたま |
| | | ⑥ 解説リーフレット等が作成されているか | ○ | 6種類配布 |
| | | ⑦ 展示解説等が適宜実施されているか | ○ | 展示解説・ガイドツアー実施 |
| | | ⑧ 観覧者アンケートを実施し、満足度等を測定しているか | ○ | アンケートの集計・分析 |
| | | ⑨ アンケート結果に基づいた展示改善を実施しているか | ○ | 分析後対応 |
| | | ⑩ 県民に対し展示情報を適宜発信しているか | ○ | HP掲載・催物案内配布 |
| 学習支援事業 | 共通 | ① 事業情報が利用者に広く発信されているか | ○ | HP, 彩の国だより等 |
| | | ② 多様な媒体による参加申し込みが方法が用意されているか | ○ | 電話・電子申請・来館時等 |
| | | ③ 多様な参加者を想定したプログラムが用意されているか | ○ | 子ども・一般対象メニュー |
| | | ④ 参加者に対しボランティア等によるサポート体制が整備されているか | ○ | 体験ボランティア配置 |

| 項目 | 共通 | チェック内容 | チェック欄 | 備考欄 | |
|-----------|----|--------|---|-----|-------------------|
| | 個別 | | | | |
| 学習支援事業 | 共通 | ⑤ | 事業実施にあたり参加者の安全が配慮されているか | ○ | 説明・実施時注意喚起 |
| | | ⑥ | 参加者を対象としたアンケートを実施し、満足度等を測定しているか | ○ | 参加者アンケート実施 |
| | | ⑦ | アンケート結果に基づいてプログラムの開発・改善がなされているか | ○ | アンケートの分析 |
| | | ⑧ | 来館者用の図書・情報コーナーを設けているか | ○ | 体験工房に常備 |
| | | ⑨ | 学芸員実習やインターンシップの学生を受け入れているか | ○ | 学芸員実習など19人 |
| 県民との連携・協働 | 共通 | ① | ボランティア制度を導入しているか | ○ | 体験・解説・環境ボランティア36人 |
| | | ② | ボランティアの活動に関する規程が整備され、適切に運用されているか | ○ | ボランティア活動要項 |
| | | ③ | ボランティアの募集・認定の規程が整備され、適切に運用されているか | ○ | ボランティア設置要項 |
| | | ④ | ボランティアの研修システムが確立され、適切に実施されているか | ○ | 研修6回実施 |
| | | ⑤ | ボランティアの活動成果が公開されているか | ○ | HP・館報等に掲載 |
| | | ⑥ | 友の会、NPO等が館事業に参加する機会を設けているか | ○ | 秋祭りに地元NPO参加 |
| | | ⑦ | 地域社会で実施されるイベント等に館として積極的に関わっているか | ○ | さきたま火祭り・鉄剣マラソン |
| 調査研究活動 | 共通 | ① | 調査研究テーマを定めているか | ○ | 年度当初にテーマ設定 |
| | | ② | 調査研究のための予算措置等に努力しているか | ○ | 紀要印刷費、調査旅費 |
| | | ③ | 調査研究活動を遂行するために必要な専門研修に参加しているか | ○ | 研修会参加 |
| | | ④ | 収集している資料に関連する専門分野についての調査研究に取り組んでいるか | ○ | 学会・研究会等に参加 |
| | | ⑤ | 資料の保存・管理、展示・教育普及、博物館経営等の博物館学分野での調査研究に取り組んでいるか | ○ | 埼玉博連等研修会参加 |
| | | ⑥ | 地域貢献の視点から、館の所在する周辺地域や地域資料についての調査研究に取り組んでいるか | × | 周辺地域確認調査予定 |
| | | ⑦ | 学芸員個々の専門分野についての調査研究等に取り組んでいるか | ○ | 学会等参加 |
| | | ⑧ | 他館や他機関との間で共同研究を行っているか | ○ | 埼玉考古学会・東北大学 |
| | | ⑨ | 調査研究の経過や成果を、さまざまな媒体・方法(著作物、展示、講演、研究発表等)で公開しているか | ○ | 講座・企画展解説・紀要等 |
| | | ⑩ | 調査研究の成果を、社会貢献の視点から国、市町村、地域社会等にさまざまな形で還元しているか | ○ | 7月遺跡報告会開催 |
| 施設・アメニティー | 共通 | ① | 施設の維持・改善についての計画を策定しているか | ○ | 優先順位と予算で実施 |
| | | ② | 展示室、収蔵庫などで耐震対策を行っているか | ○ | テグス・紐等で転落防止 |
| | | ③ | 危機管理マニュアルを整備しているか | ○ | 危機管理マニュアル |
| | | ④ | 防災・救急訓練等を定期的実施しているか | ○ | 2月実施 |
| | | ⑤ | 休憩コーナー、授乳コーナー、喫茶コーナー等を設置または状況により対応しているか | ○ | 休憩コーナー設置 |
| | | ⑥ | レンタル用の車椅子、ベビーカーは整備されているか | ○ | 車椅子4・ベビーカー1 |

| 項目 | 共通 | チェック内容 | チェック欄 | 備考欄 | |
|-----------|------------|--------|---|-----|--------------|
| | 個別 | | | | |
| 施設・アメニティー | 共通 | ⑦ | バリアフリー化など、改善必要箇所の把握のため自己点検を行っているか | ○ | 施設・設備点検の実施 |
| | | ⑧ | 一般駐車場と障害者用駐車場を区別しているか | ○ | 障害者用8台 |
| | | ⑨ | 手すり、点字ブロック、音声ガイダンスなどユニバーサルデザイン化への取り組みがなされているか | ○ | 館内バリアフリー |
| | | ⑩ | 利用情報や館内サインはわかりやすく表示されているか | ○ | ピクトサインを活用 |
| | | ⑪ | 館内サインの英文標記など国際化への対応はとられているか | ○ | 入館のしおり英語版 |
| | | ⑫ | 利用実態に応じて開館時間を弾力的に運用しているか | ○ | 夏期開館時間延長 |
| | | ⑬ | 便益施設として利用者数に見合った施設・設備が確保または状況に応じて対応しているか | ○ | 大型バス・普通車295台 |
| 施設の利活 | 共通 | ① | 施設利用のための要項、マニュアルが策定されているか | ○ | 管理規則 |
| | | ② | 施設利用のための情報が公開されているか | ○ | HPIに利用案内公開 |
| | | ③ | 施設を一般の利用に提供しているか | ○ | 講堂 |
| | | ④ | 施設を学校団体等の利用に提供しているか | ○ | レストハウス |
| | | ⑤ | 施設が地域の賑わい創造や活性化に活用されているか | ○ | さきたま火祭りなど |
| | | ⑥ | 入館料割引、スタンプラリーなど、他施設・機関との連携を図っているか | ○ | 行田市郷土博物館など |
| | 個別 (自然) | ① | 館所有の機器、機材を一般の利用に提供しているか | | |

独自項目チェックリスト

さきたま史跡の博物館

| 項目 | 独自 | チェック内容 | チェック欄 | 備考欄 |
|--------------|----|------------------------------------|-------|----------------------|
| 史跡整備事業の実施と活用 | 1 | ① 外部からの指導・助言を得ているか。 | ○ | 整備協議会 8/6,12/25 |
| | | ② 全体的な整備計画を策定しているか。 | ○ | H18基本計画策定 |
| | | ③ 情勢の変化に応じて、適宜見直しを図っているか。 | ○ | 整備協議会へ諮問 |
| | | ④ 地元との定期的な意見交換を図っているか。 | ○ | 古墳公園づくり連絡会議 10/21 |
| | | ⑤ 担当職員を史跡関連の研修に参加させているか。 | ○ | 全国遺跡環境整備会議参加 |
| | | ⑥ 市町村等への整備研修会を開催し、技術や手法の普及を図っているか。 | × | 研修会内容を見直し |
| | | ⑦ 調査の現地見学会を実施しているか。 | ○ | 1月25日開催 |
| | | ⑧ 史跡や整備に関する講座・講演会を行っているか。 | ○ | 考古学講座4/19 |
| | | ⑨ 整備事業の成果を各媒体を通じて広報しているか。 | ○ | 報道発表1/16 |
| | | ⑩ 整備事業の成果を展示等を通じて公表しているか。 | ○ | 紀要で公表 |
| 公園整備と利活用 | 2 | ① 全体的な整備計画を策定しているか。 | ○ | 県土整備部策定 |
| | | ② 公園利用についての諸規定があるか。 | ○ | 古墳公園利用規定 |
| | | ③ 公園が地域に利・活用されているか。 | ○ | さきたま火祭り等で利用 |
| | | ④ 外部に利・活用を呼び掛けているか。 | ○ | 観光情報誌等情報提供 |
| | | ⑤ 担当職員を公園に関連する研修に参加させているか。 | ○ | 全国遺跡環境整備会参加 |
| 考古体験事業の実施 | 3 | ① 考古の専門館としての体験メニューを複数用意しているか。 | ○ | まが玉作り等9メニュー |
| | | ② 安全に配慮しているか。 | ○ | 説明時に注意喚起等 |
| | | ③ アンケートを実施して、参加者の意向を把握しているか。 | ○ | 事業毎に実施 |
| | | ④ 適宜改善を図っているか。 | ○ | アンケートの集計・分析 |
| | | ⑤ 外部からの出張事業の要請にもこたえているか。 | ○ | 出前授業実施17校 |
| | | ⑥ 様々な媒体を通じて情報を発信しているか。 | ○ | 情報発信26件 |
| 企画展示事業の実施 | 4 | ① 考古の専門館としての企画展を実施しているか。 | ○ | 企画展開催 |
| | | ② 最新の考古資料を展示・公開しているか。 | ○ | 最新出土品展開催 |
| | | ③ 学芸員による展示解説を行っているか。 | ○ | 企画展開催時毎日曜日 |
| | | ④ 展示図録・ポスター・リーフレット等の紙媒体を作成しているか。 | ○ | 企画展毎に作成 |
| | | ⑤ 考古に関する講座・講演会・調査発表会等を開催しているか。 | ○ | 関連講座開催 |
| | | ⑥ アンケートを実施して、見学者の意向を把握しているか。 | ○ | 常置アンケートに項目設定 |
| | | ⑦ 展示情報を様々な媒体を通じて発信しているか。 | ○ | 情報発信5件 |